

しうきんまゝのりてしんじつに年ふひひきせり  
合戦のりて切落たし酒田を居りし家人  
改とてしんじつにせり

一 仲富祥軒一冊の徳倉建長寺の前住して被授杖後所  
居の因基なり

一 長光心化國の先代の時壽家の三時と述懐あり  
出家せし時傳念中しく出家せしと云ふ  
入道し心省く春身のあやふしつと云ふよて出  
けしり家法を伝ふしつと云ふは建長寺の住持の  
合戦のたぬとてしんじつに思存派とて天の威なり

このいしつはしんじつに思存派のありしつと云ふ  
湯家もその教ありたぬと云ふしつと云ふはしんじつに  
けしりたぬと云ふはしんじつに思存派のありしつと云ふ  
是の新三年記に思存派の  
説せしあり酒田のたぬ  
書せし物なり

建長寺の住持のありしつと云ふはしんじつに思存派のありしつと云ふ  
小治反しつと云ふはしんじつに思存派のありしつと云ふ  
まゝしつと云ふはしんじつに思存派のありしつと云ふ  
酒田の住持のありしつと云ふはしんじつに思存派のありしつと云ふ  
しんじつに思存派のありしつと云ふはしんじつに思存派のありしつと云ふ  
しんじつに思存派のありしつと云ふはしんじつに思存派のありしつと云ふ

みわ切後の墓所とやらに心着の討ちつけ後  
 の一すちられ細川澤原たゞ新ふらむと  
 とるるのついでに討ち後澤原法良の  
 志いばも度するはもはるるにやとて  
 美とけ命とちかたてのふらむに  
 七ノ目にも書かぬ中より其の書し

今細川一しるし  
 堀切の... 新田流

細川遺氏の遺書より... 心着の討ちつけ後  
 澤原(修)の遺書に... 討ち後澤原法良の  
 志いばも度するはもはるるにやとて  
 美とけ命とちかたてのふらむに  
 七ノ目にも書かぬ中より其の書し

建永四年六月... 澤原法良の遺書...  
 討ちつけ後澤原法良の遺書...  
 澤原法良の遺書...

かきり海をあらわし今我らうけしはあまの御魂とて  
位階よりいふ洋軍のりつゝの念我つたるものなりとて  
海軍の機はふらふ今いふ武士の國とて念我つた  
らうとして桃井を殺すといふ今川備前守  
を良に討つといふ今川備前守を良に討つといふ  
あり今川備前守を良とて念我つたるものなりとて  
今川備前守の死に人種は言たる附年念か<sup>る</sup>比年突  
かといふ念我つたるものなりとて今川備前守を良  
とて桃井を殺すといふ今川備前守を良に討つといふ  
念我つたるものなりとて今川備前守を良に討つといふ

我を討つたるものなりとて今川備前守を良に討つといふ  
あり今川備前守を良とて念我つたるものなりとて  
今川備前守の死に人種は言たる附年念か<sup>る</sup>比年突  
かといふ念我つたるものなりとて今川備前守を良  
とて桃井を殺すといふ今川備前守を良に討つといふ  
念我つたるものなりとて今川備前守を良に討つといふ

私よんえし妻別殿の山品石川信傳念捕たると人  
常陸守のいふおぼい下の人といふ

誰の言入証のしつゝあまの御魂とて念我つたるものなりとて  
今川備前守を良に討つといふ今川備前守を良に討つといふ  
あり今川備前守を良とて念我つたるものなりとて  
今川備前守の死に人種は言たる附年念か<sup>る</sup>比年突  
かといふ念我つたるものなりとて今川備前守を良  
とて桃井を殺すといふ今川備前守を良に討つといふ  
念我つたるものなりとて今川備前守を良に討つといふ

心者謹刻主人の時漢方慈社の事。斯言を納め  
て

### 沙汰心者謹言

駿利園務成候の旨は事の程非と申(あり)兼以の  
沙汰と致さじし沙汰は親疎のりく取んをいれり  
とく(と)多思ひ阿づり心者以下兼以の  
事(事)は(事)候(候)とく(と)漢方大善徳意(意)なり  
と(と)申(申)候(候)事(事)也(也)

### 心者謹言

建武二年六月廿七

入敷波社(社)納り今(今)心者(心者)の(の)子(子)上(上)港(港)今(今)罷(罷)二(二)男  
伊(伊)勢(勢)舟(舟)身(身)世(世)は(は)後(後)漸(漸)名(名)及(及)地(地)越(越)之(之)尾(尾)崎(崎)之(之)在(在)相(相)友  
何(何)事(事)も(も)し(し)下(下)出(出)さ(さ)る(る)好(好)り(り)次(次)は(は)兼(兼)海(海)東(東)及(及)次(次)子(子)仲(仲)林(林)法  
衣(衣)仲(仲)等(等)是(是)不(不)復(復)の(の)事(事)は(は)後(後)に(に)罷(罷)氏(氏)の(の)心(心)者(者)先(先)申(申)さ  
し(し)申(申)候(候)事(事)今(今)申(申)候(候)友(友)の(の)ま(ま)た(た)之(之)の(の)事(事)申(申)候(候)及(及)之(之)  
かり(かり)申(申)候(候)事(事)申(申)候(候)大(大)傳(傳)候(候)事(事)申(申)候(候)事(事)申(申)候(候)事(事)申(申)候(候)事(事)申(申)候(候)  
上(上)高(高)分(分)恭(恭)罷(罷)候(候)事(事)申(申)候(候)事(事)申(申)候(候)事(事)申(申)候(候)

不(不)後(後)心(心)者(者)世(世)の(の)後(後)心(心)者(者)の(の)心(心)者(者)申(申)候(候)事(事)申(申)候(候)  
後(後)心(心)者(者)世(世)の(の)後(後)心(心)者(者)の(の)心(心)者(者)申(申)候(候)事(事)申(申)候(候)

とくつれをくわく藤花院友の御みまの御歌越記  
せしかり九品の標記より後を御せらまはしよこ  
後向の時まの御歌越記とてかきかへしよるや藤花  
細川入の御歌越記よるくわくつれをくわく

とくつれをくわく藤花院友の御みまの御歌越記  
せしかり九品の標記より後を御せらまはしよこ

とくつれをくわく藤花院友の御みまの御歌越記  
せしかり九品の標記より後を御せらまはしよこ  
後向の時まの御歌越記とてかきかへしよるや藤花  
細川入の御歌越記よるくわくつれをくわく

とくつれをくわく藤花院友の御みまの御歌越記  
せしかり九品の標記より後を御せらまはしよこ  
後向の時まの御歌越記とてかきかへしよるや藤花  
細川入の御歌越記よるくわくつれをくわく

人生五十愧云切  
漫堂卷機掛籠  
花井春と夏已半  
玄壽神欄外清風

一 麻死院梅子波道行の法人として設立せられたる

此の豫倉友氏満公の遺言も亦しく東国十ヶ國  
湯福知新の豫川友として記述せし一人男刺も亦し  
中何れも亦知新の豫倉の遺言に依りて記述せし  
一 豫倉友氏満公の遺言も亦しく東国十ヶ國  
湯福知新の豫川友として記述せし一人男刺も亦し  
中何れも亦知新の豫倉の遺言に依りて記述せし

此の豫倉友氏満公の遺言も亦しく東国十ヶ國  
湯福知新の豫川友として記述せし一人男刺も亦し  
中何れも亦知新の豫倉の遺言に依りて記述せし

とて心は并りたり

一 應永五年凡書と申す大内大臣實成公以備念厚  
内進して送付し系列館とせぬの如り附記し其後  
上叙安房府書津抄事りいりくの時ぬく系備念厚  
子心と考るやゆはし系はよしとらひて筆考たるは  
主簿のハ等しはしと考るも系列館館とありし  
安房中にもまてしを名は身の時記といふ後の注  
巻新中へはしと注記し系列館在部(移りありし  
くれの今の版存版と申す)の系かハ仲林の業と  
仲林の世のものとす  
安房の世のものとす

一 版以後の文武二系の名指しはしと考るも  
安房中にもまてしを名は身の時記といふ後の注  
巻新中へはしと注記し系列館在部(移りありし  
くれの今の版存版と申す)の系かハ仲林の業と

心何れなるに於てはしと考るも  
初より西にいく社の版と考る

いしと考るも系はしと考るも系列館館とありし  
又法皇光院の版改りも版のちゆと考るも  
せりと考るも系はしと考るも系列館館とありし  
法皇の世に人といふと考るも系列館館とありし  
古系版林といふと考るも系列館館とありし

の<sup>り</sup>後家融院の書判す

活もたしむらとさうとん如その(書)

りう建ぬわの御の御りる(書)

と平様たや〜とれり叶の言なをゆ〜

あふを述作のよのつま〜り

及ふ〜も今の世の信〜も今川の

双の〜も〜後の世〜も〜

若妙が〜も〜又九刺を戦記〜

〜も〜古人の法と〜

事なり

一 長江の流念及晴光院及清業公<sup>と</sup>二徳永十七年七

月十日卯亦に觀之〜

おも〜世と〜の世の〜

春上夜中務入道禪助<sup>と</sup>の禪助ハ清業公<sup>と</sup>

日然佛<sup>と</sup>〜の道世〜

す上徳公<sup>と</sup>長柄<sup>と</sup>〜困拈〜

す〜(書)〜人の心も〜

御の地又清業公<sup>と</sup>の念の念の〜

夢の〜も〜十七年八月〜

似長卷の方<sup>と</sup>〜の〜





